



精神科医
瀬戸 睿

6月26日、27日と横浜で行われた日本精神神経学会に行ってきました。

年に一回の学会で多くのことが報告されます。その中で私の目を引いたのが、女性精神科医夏刈郁子氏の講演でした。現在、夏刈医師は焼津市で夫と一緒に精神科クリニックを開業しています。母が本人10歳の時に統合失調症を発症し、御自身も二度の自殺未遂をし、

その後精神科医になった方です。夏刈医師の講演を聞き、感動しました。それは、当事者・家族の苦労を余りに知らな過ぎる精神医療従事者が多くいることを指摘し、内的偏見を自ら取り払うべきだと呼びかけたからです。私達精神科医は「病気を差別するな」と叫ぶ人たちは多くいますが、

その人達に「統合失調症の方との結婚を親として許しますか？」と問うと「はい」と答える人は殆どいないでしょう。これを「内なる偏見」(セルフスティグマ)といいます。まず、この偏見を無意識的に持っていることを自覚し、それを克服し病気に対する社会の偏見に立ち向かうことが求められています。

心の悩みを募集します

お寄せ頂いたお悩みを紙面で紹介し(匿名とします)、アドバイスいたします。

〒343-0845 越谷市南越谷1-4-53-103号、
東武朝日編集部 「心の悩み」係
または、FAX 048-985-2927まで。

